

●お知らせ

あとがき

この冬は例年にない厳しい冬です。積雪の多さ、低温、強い北風などが重なっています。そんな中、小さき群の里の建設工事が進められており、現場に足を運ぶたびに、なんでまた今年に限ってこんな気候で…、とつぶやきか口からもれます。しかし、どんな気候条件でも黙々と作業を進める工事関係者の方々の姿には本当に頭が上がり、つぶやくことしかしない自分を恥じるばかりです。

工事に関係する方々、寄付などで応援してくださる方々、行政や地域の方々、そしてカナンの園関係者など、本当に多くの方々の力、と〴〵思い、が集まって、建物に命が吹きこまれていくような感動を覚えながら、工事の推移を見守っています。そして必ずや利用する方々、訪れる方々の笑顔があふれる建物ができ上がると思っています。当初の予定よりは少し遅れていますが、次号には皆さまへご報告できるものと思います。

さて、今月号の特集は三愛学舎の創立40周年について組みました。都市部から離れた地域にある、小さな高等部だけの私立の特別支援学校ですが、前号のあとがきでも触れたように、この学校で学んだ生徒たちの姿が、学校そのものを映し出す鏡になっています。

「栄華を極めたソロモンでさえ、この花の一つほどにも着飾ってはいなかった」(マタイによる福音書6章29節)と聖書にあります。

「栄華を極めたソロモン」にはなれなくても「着飾った花」として一人ひとりが輝いてほしいと改めて思っています。



2月末の小さき群れの里建設工事現場。中央がホール、手前は物品庫として使う旧建物の一部。

Scope & Spot



今年度のクリスマスページのしおりの表紙を描いて下さった中川静子さん。絵を描くことが大好きで、完成するまで10日間ほどかけて熱心に描いてくれました。

「造形集団 風」にも毎週楽しみにして通っています。シャロームでの行事のポスターなどお願いするとよこんで描いてくれます。明るい色使いで、みんなをほっこりとした気持ちにさせてくれる静子さんの絵が、みんな大好きです。

●機関誌「カナン の 園」では、読者の皆さまからの声もお待ちしております。機関誌カナン の 園に対するご意見、ご感想を、事務局までお寄せ下さい。

社会福祉法人カナン の 園

福祉型障害児入所施設 奥中山学園  
☎0195-35-2314 FAX 0195-35-3406

多機能型事業所 ゆいまゐる  
☎0195-35-2314 FAX 0195-35-3406

生活介護事業所 小さき群の里  
☎0195-35-3080 FAX 0195-35-3080

共同生活援助事業所 ののさわ (グループホーム1~6)  
☎0195-35-2232 FAX 0195-35-3405

生活介護事業所 ヒソプ工房  
☎019-646-8581 FAX 019-646-8582

共同生活援助事業所 HANA (盛岡地区グループホーム1~6)  
☎019-646-8581 FAX 019-646-8582

特定相談支援事業所 らばーる  
☎019-656-6863 FAX 019-656-0553

生活介護事業所 シャローム  
☎0195-35-2883 FAX 0195-35-2884

就労継続支援B型事業所 ウィズ  
☎0195-36-1120 FAX 0195-36-1121

多機能型事業所 福祉工場カナン牧場  
☎0195-35-2583 FAX 0195-35-3145

共同生活援助事業所 美空 (グループホーム1~10)  
☎0195-35-3844 FAX 0195-35-3840

居宅介護事業所 れもん  
☎0195-35-3844 FAX 0195-35-3840

障害児相談・特定相談支援事業所 むつび  
☎0195-35-3665 FAX 0195-35-3840

多機能型事業所 となんカナン  
☎019-681-3004 FAX 019-637-2601

カナン市場 (カナン の 園商品一括取扱所)  
☎019-639-3120 FAX 019-637-2601

学校法人カナン学園

三愛学舎 (特別支援学校高等部・知的)  
☎0195-35-2231 FAX 0195-35-2781

# TSK カナン の 園

124

No.124  
発行日/2018年3月15日  
編集/社会福祉法人カナン の 園  
〒028-5133 岩手県二戸郡一戸町中山字大塚4番地7  
TEL 0195 (36) 1026  
FAX 0195 (36) 1027  
ホームページ  
http://www.canaan-jp.net/  
E-mail/honbu@canaan-jp.net

編集者 社会福祉法人カナン の 園  
〒028-515-1333 岩手県 二戸郡 一戸町 中山字 大塚 四番地 七 ☎0195-36-11026

発行所 東北障害者団体定期刊行物協会 (略称 TSK)  
〒981-0907 宮城県仙台市青葉区高松一丁目四一〇 頒価百円

奥中山児童発達支援部長  
兼奥中山学園長  
岡崎俊彦

## この子らを世の光に

奥中山学園が開設し丸45年目を終えようとしています。この間、子どもが育つ環境は大きく変わってきました。新聞には連日のように貧困の問題、虐待や子どもが起す事件が話題にあがっています。今、日本の未来を背負っていく子どもへの育ちに、皆が本気になって取り組む必要があります。

奥中山学園にはカナン の 園の理念を基とした〈学園の大切にする事〉があります。7項目からなり、その第1には「神と共に歩む」とあり「子どもたちの成長発達にとって、『自分は愛されている』という体験が、大切な土台となります」とあります。2番目は生活について記されており「自らの生活を造りあげていく中では、(子どもたちが)自らやろうとする意欲が、まわりのことに関心をもち、自分たちの生活をよりよく創りあげていく力を生み出します。その意欲は、自分が

仲間の中で絶えず認められ、支えられていること、かつまわりの大人たちが、そのやろうとする努力を大切にすることによって高められていきます」と書かれています。

その後、遊び、健康・身体づくり、つながり、教育、家族と続き、それぞれ、時代が変化しても子どもが育つ上で、欠かせない大切なことが書かれています。子どもたちの中には、チャレンジする

のに躊躇したり、自分の存在を確かめ続けたり、思春期というだけではなく、自分の今に不安を抱えている子どもも多くいます。

神様に授かった命、何らかの役割をもってこの世に生まれてきています。その役割は「自



節分には「鬼」になって地域の子どもたちと。



英語教室でハロウィン。たくさんの人と出会い、たくさんの経験を。

分は愛されている」と感じられる日常の丁寧な生活と、自分が仲間の中で絶えず認められ、支えられていると感じられる生活から子どもたち自身が感じていくことだと思っています。私たちはこの生活の準備を怠らず、繰り返し、子どもに寄り添っていくことを大切にしていきたいです。

職員も、カナン の 園が展開する事業も同じです。カナン の 園には、愛が流れています。何気ない会話や眼差し、安心、困難を乗り越えようとする力、それらは人を包み込みます。神様に授かった役割、広く繋がり、仲間を増やしながら今後も事業を展開していきたいと思っています。

「この子らを世の光に」。人を愛し、愛され、認め、認められ、そのような相互関係の中で生きていく学園の子どもたちがカナン の 園が世を変え光になる。そう信じています。

# 三愛学舎創立40周年 人と人との繋がりが合い、 その祈りの中から次の世代へ

今年度、学校法人カナン学園 三愛学舎は、創立40周年の大きな節目を迎え、2017年10月20日には、創立40周年記念礼拝・式典、そして感謝会を開催することができました。多くの方々の支えにより、現在の三愛学舎があると改めて実感した1年でもありました。感謝の気持ちをこめ、学校内外の皆さんの声を届けたいと思います。

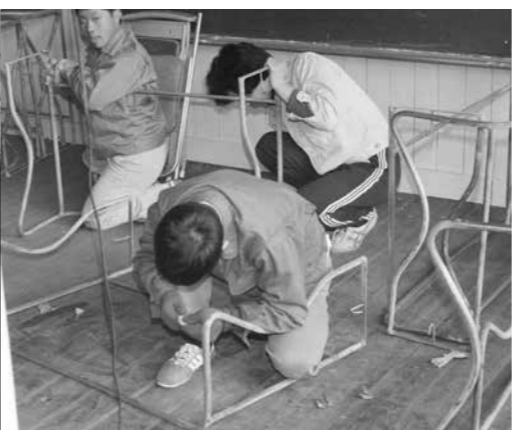
## ■ 神を愛し 人を愛し 土を愛す

開校から今日まで、多くの皆様のご支援、ご協力を賜りましたことに心より感謝申し上げます。

1978年4月12日、旧岩手町立水堀小学校御堂分校を譲り受けた仮校舎で12人の生徒を迎え、三愛学舎養護（高等）学校の第1回入学式が挙行されました。中津徳平初代校長は「養護学校の生命は建物ではなく、一つ一つの活動が生きているかどうかであると思う。職員、生徒が協力して頑張っていきたい」と式辞を述べられました。開校を迎える準備には、中津校長先生自らが、力強い文字で「三愛学舎」と校名を記され、希望に満ちた表情の青年たちが、教室や校舎の周りの環境整備に黙々と取り組む様子が記録に残っています。まさに、一つ一つの活動が生きている姿を見るような思いがしま



1978年4月 初代校長中津徳平氏による校名書き。



生徒と一緒に環境整備（御堂仮校舎）。



たくさんのお客様の前で堂々と挨拶をしました（沼臺さん）。



40周年記念感謝会の様子。  
第1期の姉帯さん（左）と坂井とも子さん（右）。中央は早坂伸子先生。

## ■ 40周年感謝会の後に 卒業生にインタビュー

三愛学舎の思い出は、御堂校舎の時に早坂先生と友達と勉強したことが思い出に残っています。これからも三愛学舎の生徒がカナン牧場にたくさん実習に来てほしいです。

（カナン牧場従業員 姉帯光恵）

40周年記念感謝会では、昔のことを思い出して泣いてしまいました。三愛学舎の思い出は、早坂先生と太鼓を叩いたことや、ソーラン節を踊ったことが楽しかったです。

（カナン牧場従業員 三上美幸）

## ■ クロスカントリースキーの普及について。

過日、三愛学舎創立40周年に参加させていただきました。創立時から繋がりがああるクロスカントリースキーについて一言述べます。

三愛学舎で健康管理のため、クロスカントリースキーを教えたいとカナンの園の職員さんから相談を受けました。

できるだけ生徒さんたちにあつたスキーを揃えて、先生方のとても熱心な指導で始めました。スキー靴の履き方、ストックの持ち方、スキー板に乗る練習から始まりましたが、最初は皆さんが滑ることができず心配でした。先生方の指導の下で、スキーに乗り、歩けるように

くの皆様は、改めまして感謝を申し上げますと共に、今後も引き続き、一人一人の生徒を温かくご支援頂きますようお願いを申し上げます。

（校長 伊藤和彦）

## ■ 40周年記念式典 生徒代表挨拶（抜粋）

三愛学舎では本科と専攻科があり、本科では音楽や体育、生活などの授業を通して人との接し方を学びます。専攻科は本科で培ったことを活かすための成長の場だと私は思っています。

専攻科は、合同グループ学習を通して自分の進路を自分で決め、自分が決めた道を進むためには何が必要かなど、自分を見つめ直し、社会人になるための準備の場です。実習期間では職場実習を通して、職場の方から仕事の仕方、働くために必要なことやコミュニケーションのとり方を教わるすることができます。そして、自分がどんな生活を送りたいかを実際に体



クロスカントリースキー。冬場の体力づくりとして創立時から継承されています。

なりホツとしました。さらに中には小岩井クロスカントリースキー大会、岩手山麓スキーマラソン大会に参加し完走する生徒も出るまでになりました。

ここまでクロスカントリースキーが根付くとは思いませんでした。これは皆さんの愛情と努力のたまものだと思います。これからは新しい視点で、三愛学舎の歴史や文化を掘り起こしながら地域の魅力を発信し、三愛学舎と協力し地域住民と交流を深め、奥中山の発展に努めてゆきたいです。

（いなりスポーツ 奥中山 小笠原均）

\*いなりスポーツさんには、学校で使用するスポーツ用品、特にクロスカントリースキーの購入等で大変お世話になっています。

### ■ 奥中山での5年間

9歳の時、病気をして生まれ変わった娘。新しい子育てが始まりました。悩みました！ 迷いました！ 娘はやがて大人になります。その時、親元を離れて暮らせる人になることを願い、奥中山学園に入所し、三愛学舎で学ぶことを選びました。

15歳から20歳まで、多感な思春期を



ご両親にはさまれ、成人を祝う会での晴れ姿。

大切に育てて頂きました。寮では発作が頻繁にあり、担当職員はどれほど大変だったことか。学校でのスキーの授業は初体験です。初めは転ぶことを恥ずかしいと思っていたようですが、「転んでもいいんだ！」と学んでいます。

週末の帰宅日。月の出る晩は一緒に眺め、その明かりに照らされながら家に向かいました。奥中山に通うことで得た、私たち親子の幸せです。5年の間に入院や手術もしました。どんなことがあっても、いつも皆さんに支えられ、祈って頂きました。だから娘も親も頑張ることができました。あつという間の5年間で振り返り、新しい勇気が湧いてきます。

（三愛学舎専攻科2年 柏木ひばり母 柏木貴美子）

となんカナンで働き始めてすぐのことです。Kさんが入院していた精神科の病院から退院し、再出発として、以前に利用していたとなんカナンで就労に向けての準備をすることになりました。私は、新しい担当者として、他法人の相談支援事業所で初めてお目にかかりました。

ました。絵を描くのも上手で、担当職員が彼女の描いた絵をお菓子のシールに使用するなどということもありました。私はサービスマネジメントという立場があり、彼女と接する上では、色々と彼女の状況や、将来の希望などを聞きだそうと、話し合いを重ねました。具体的な答えを求め、答えてくれないとそれを待つ、という流れで、結果的に沈黙が続く時が多くなってしまいました。そんなことが続いたある日、突然彼女が駆け寄ってきて私に言いました。「前か

## ことばひろい 第22回

# ペースが合わないのが、辛いです。

となんカナン事業所 サービスマネジメント責任者 刈屋百恵

ことを伝えましたが、頑なに拒否をされ、結局、その日は別々に帰ることにしました。

入院前は、就労をめざすことを目的とした期限のある利用でしたが、退院後は彼女のペースで進められるように、期限のないサービスを利用してもらい、手先の器用さを活かしたいと手芸の作業を担当してもらいました。読書家で、色々な知識がありますが、環境になじむのには時間もかかり、その日の体調を確認し、作業量を調整するなどの配慮も行つてき

ら言いたかったけど、あなたとはペースが合いません。嫌いだとかではなく、ペースが合わないの、辛いです」と。普段はどちらかというと、とつとつと話す彼女が、このときは急に堰を切ったように話し出しました。私からの関わりへの漠然とした違和感が、言葉となつて溢れ出した瞬間だったのかもしれない。そんな突然の様子に、私もどう答えていいのかわからず、彼女の言葉を聞いて、茫然と立ち尽くすだけでした。



### 三愛学舎沿革史

- 1972年11月 社会福祉法人カナン園設立認可
- 1973年4月 「奥中山学園」開設
- 1974年4月 「奥中山学園」内に私設高等部設置
- 1978年1月 学校法人カナン学園認可
- 1978年4月 「三愛学舎養護（高等）学校」開校（岩手町御堂仮校舎）
- 1980年4月 新校舎落成移転（一戸町奥中山、現校舎）
- 1996年4月 高等部専攻科開設
- 2008年4月 「三愛学舎」に校名変更
- 2017年10月 創立40周年記念礼拝・感謝会開催



1978年4月 御堂校舎の前で。



創立40周年記念礼拝・感謝会。生徒による合唱。

Kさんの状況については定期的に主治医の先生と話し合い、時には電話で相談し、本当に助かりました。その中で、こんなことを言われたことがありました。

「福祉職員は『現在の課題』に目を向けて、課題をなくそうと、いろいろ本人に働きかけたり取り組んだりしているが、本人の内にある変化を待つことも必要だ」と。知らず知らず力が入っていた自分に気づかされ、いい意味で力が抜けた感じがしました。

Kさんのやりとりは、まさしく『現在の課題』に私自身が目を向けすぎていたばかりでなく、彼女にも私のペースで

目を向けさせてやうとしていた、ということなのでしょう。それを彼女は「ペースが合わなくて辛い」と表現してくれたのです。

Kさんからの一言があった後、彼女は私に声をかけても一切の言葉を発しなくなりました。私も一歩引いて、作業のことや将来のことなどを聞くことはしないようにしました。他の職員が彼女のペースでやりとりしてくれたり、彼女自身がとなんカナンとは別の「外の世界」に仲間を増やしていったこともあり、少しずつ将来への道筋が見えてくるようになりました。私も、挨拶だけは欠かさずにしようと思ひ、声をかけていました。調子がいいと頭をコクリと下げて応えてくれることもあるようになりました。

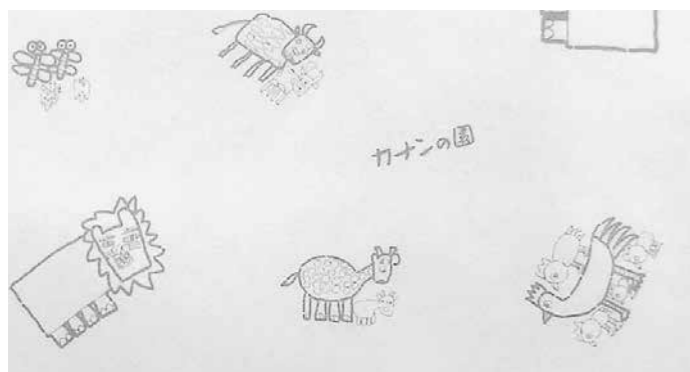
しばらくしてKさんは、手先の器用さを活かし、盛岡市内の企業に就労し、6カ月間勤めました。その間にもさらに仲間関係を築き、自分の将来の姿も思い描けるようになってきました。担当職員も継続的に関わり、東京にある就労移行支援事業所をステップに、最終的には東京にある有名な企業に就職できました。今も、その会社でイキイキと働いています。長期休みで帰省した時は、となんカナンに顔を出してくれます。私があつた頃に感じた、どこかとんがった感じは影をひそめ、ほんわかとした雰囲気を感じます。綺麗になり、輝いて見えます。

そして気が付けば、私たちは互いに違和感なく、普通に会話をしていました。

# カ ナ ン の み ん な



おすすめの商品は…



カナンの園製品の包み紙の一部。



「わたるくん」。

## 出張販売!!

岩手保健医療大学は盛岡駅西口前にあります。本学には学食がなく、飲食店が近くに少ないため、学生のお昼ごはん確保のために、お弁当を販売してくれる業者を探していました。そんな中で、とんかんカナンさんと繋がり、現在週一回、出張販売に来て頂いています。

本学は学生、教員とも女性が多いためか、販売メニューの中では、プリンやパウンドケーキなど、スイーツの

売れ行きがよいようです。

「今日はとんかんカナンさんは来るの?」といった声も時折聞こえてくるなど、来校を楽しみにしている人が増えているのを感じます。

「紅茶のプリンが好きでよく食べています」(学生)、「バターの風味がきいたクッキーがお気に入りです」(事務職員)、「売り手の人の感じもよく、また買いたくなります」(教授)など、学内の皆さんからも好評です。

(岩手保健福祉大学 総務課 後藤泰輔)

## 「画伯」の今

小さき群の里には、「画伯」と敬意を込めて呼ばれる利用者さんがいます。

カナンの園の菓子類などの包み紙や、ひつじ工房アドナイ・エレの羊毛マットの原画となっている「らいおんさん」「にわとりさん」「ぶたさん」などの絵を描いてきた大家正則さんです。ここ数年は体調がすぐれず、思うように描けなかったり、創作意欲そのものがあまりなくなったりで、

作品を残す機会がめっきり減ってしまいました。

しかし、最近になって、体調も安定してきて、少しずつですが再び絵を描けるようになってきました。この度、一緒にアドナイ・エレで過す職員(親しみを込めて「わたるくん」と呼んでいます)の絵を描いてくれました。体調がよくなり、また、以前のように、創作意欲が戻ってくればいいな、とファンの一人として願っています。

(小さき群の里ひつじ工房アドナイ・エレ職員 柴田雅代)

## 奥中山学童クラブ、シヤロームで仕事体験!

シヤロームと奥中山学童クラブは、開設当時から互いが交流しやすいように、建物や廊下でつながっています。毎年、様々な行事を合同で行い、子どもたちと利用者の方々が一緒に楽しい時間を過ごしています。

そんな中、学童クラブの先生より「学童の子どもたちにもぜひ体験させてもらえませんか?」と新たな提案がありました! 私たちも、いつもの行事と違う形での交流にとっても興味が湧き、お受けすることにしました。

当日、子どもたちはシヤロームの仕事やせんべいの作り方の説明を一通り聞き、生地を丸めて計量、焼き上がったせんべいの袋詰め、賞味期限シール貼り等にも挑戦し、実際の商品と同じ形に仕上げてもらいました。最後に、一人ひとりに袋の中に入れるメッセージカードを作ってもらい、世界に一つだけのオリジナルせんべいができ上がりました。

今回の体験を通じ、普段近くにいなくてもあまり知る機会のないシヤロームの仕事や一生懸命に働いている利用者の方々の姿に触れ、たくさんの方を感じ、大人になっても楽しい思い出として残っていて

ほしいなあと思います。

いつも地域の中でご支援ご協力をいただき、たくさんのお礼の言葉が、未来を担う子どもたちにも、こんな形でいい思い出を提供できたこと、ささやかなことですが、こんな経験が、やがて豊かな地域社会に繋がって行くことを信じています。

(シヤローム事業所副所長 尾崎努)



自分だけのオリジナルメッセージカードを書きました。「家族にありがとう」。



生地を量って、丸め作業。

## 銀河プラザ販売会に参加して。

東京銀座にある岩手県のアンテナショップ「銀河プラザ」にて、昨年の12月1日から5日まで開かれた「二戸町物産品販売会」へ、前年度に引き続き参加させて頂きました。

初日からカナン牧場のパンは好評で、日々仕入れるパン類は毎日閉店を待たずに完売し、その後は一緒に持参したシヤロームのおせんべいを担当する「おせんべい屋さん」になるほどでした。

お客様は観光の方、歌舞伎座の公演を見に来ている方が多いように感じました。岩手出身のお客様はカナン牧場のパンを知っていて、「岩手に帰ると買って食べるんだよ」と話し購入してくれていました。



銀河プラザ販売会に参加して。

定番の食パンよりは、ドイツパンや、レーズンとくるみの入ったコミヤパンを購入される方が多かったです。

また、クリスマスシーズンということもあって販売したシュトレンは、試食したお客様はみな「おいしい」と言ってくださり、中には家に帰ってから、わざわざ銀河プラザに電話をかけて注文してくださった方もいました。

今回の販売会を通して、直接お客様より意見や感想が聞けたことが何よりの成果だったと感じます。今後も皆さまの声を大切に、皆さまから愛されるおいしいパンをカナン牧場のみんなで作ってまいります。(カナン牧場支援職員 渡邊諭)